様式第１号（第３条関係）

【附属機関名称】会議概要

会　議　名	令和元年度第１回健康あだち２１専門部会
事　務　局	衛生部　こころとからだの健康づくり課
開催年月日	令和元年７月８日（月）
開催時間	午後1時〜3時
開催場所	足立区役所　中央館８階　特別会議室
出　席　者	別紙名簿の内、１０名
欠　席　者	別紙名簿の内、７名
会議次第	別紙のとおり
資　　料	報告資料 第4回子どもの健康・生活実態調査　平成30年度報告書【概要版】 「はによいおやつ」クリアファイル・リーフレット

（審議経過）

（田口）資料の確認
委員の紹介
専門部会の意義、目的の確認

（近藤）日本中で、様々な企業が住民を巻き込んで連携して健康づくりを進めていく流れが出来てきている。また、データの活用、レセプトデータだけでなく行なった事業を数値で評価していく動きも進んできている。足立区の強みは、住んでいるだけで健康になれるまちという環境整備に取り組んでいること、それを様々な組織と連携して行なっていること、しっかとデータで評価して区民に公表しているところ。今後も、このまま区民の健康作りに尽力願いたい。

山杉衛生管理課長より、資料１に沿って説明
（近藤）予算はどうなっているのか。
（山杉）基本設計なのでまだであるが、３割ほどは今年の６月補正予算で取っている。

馬場こころとからだの健康づくり課長より、資料１１に沿って説明
（小菅）広島県呉市が HbA1c７％以上の人を対象に取り組みを行い、７％以上の人をゼロにした事例がある。また、荒川区においても同じような取り組みを行なっている。足立区でもやるべきではないか、と区長にも話したところ、スタートしますという回答を受けた。果たして現在その話は進んでいるのか。
（馬場）糖尿病の重症化予防と、その先の腎臓の重症化予防は段階的に行なっている。足立区でも平成２６年度より、おおよそ年間２００名ほどの HbA1c が７％以上の方に対して保健師が訪問し、生活指導をしながら医療機関へ繋げる、という事業を行なっている。訪問のみではなく、電話や手紙なども行なうなど、個別に対応していくという事業は出来ていると考える。しかし、特定健診を受ける人数が少なくなっていること、対象者の年齢が年々低くなっていることを受け、３９歳未満の方の重症化予防に今後は力を入れて行きたい。腎臓の重症化予防に関しては、データヘルス推進課の報告を参考にしていただきたい。

物江データヘルス推進課長より、資料１１－１、１１－２、１１－３に沿って説明
（湊）２３区で子どもの虫歯が無い割合が２２位に上がれたことを非常に嬉しく思う。「歯ロー！６ちゃん」事業では、各保健センターの歯科衛生士からも話を聞くが、これだけの学校数で、多大な労力だと思う。よくそこまでやってくれた、と思う。６歳臼歯の大切さを、診察で保護者に伝える前に、子どもから保護者に伝わっている事例を数名見てきた。とても良いことだと思うので、ぜひこれからも進めていただきたい。
（藤原）「はによいおやつ」のクリアファイルがとてもいいと思う。
永久歯フッ化物塗布事業は、今年も春秋とも同じ学校で行なうのか。
（物江）同じ学校で行なう。
（藤原）春と秋に２回行なう目的は何なのか。
（物江）フッ化物の塗布が、年に数回が適切といわれている。学校では年に２回健診があるため、それに併せて行なっている。

菊地子ども政策課長より資料１１－４に沿って説明
山村教育改革担当部長より資料１１－５に沿って説明

半貫学務課長より資料１１－６に沿って説明

（湊）近隣区から引っ越してきた子が、足立区の給食はおいしいと言っているのを聞いて安心した。一方で、兄弟で違う小学校に通っている子たちが、片方はおいしいが、もう片方はまずいと話していた。学校ごとに味の違いが出るのはなぜなのか。均一化は可能なのか。

（半貫）各学校の栄養士によって味の違いが出ることは認識している。また、味の違いが残菜の差に出ることも把握している。そのため、ベテランの栄養士を派遣して、味の向上に努めている。

（藤原）作り手の違いなのか、それとも献立やレシピの問題なのか。

（半貫）足立区は、学校の栄養士が献立を立てているため全校で違う献立となっている。献立の違いによっては、子どもの口に合う合わないがあるのは否定できない。

（藤原）おいしい給食が結局のところ、どのような効果があるのかを学校ごとの違いを手がかりに、今後まとめていただきたい。

（近藤）オリンピック給食のオランダ、というのはなぜなのか。

（半貫）平成２９年に、オランダオリンピック委員会・スポーツ連合、独立行政法人日本スポーツ振興センター、足立区、江戸川区、西東京市で協定を結んだことを皮切りに、連携事業の推進としてオランダ給食に取り組んだ。メニューは、ホットサンド、トマトゥンスープ、パプリカサラダ、ココアゼリー。子どもたちからは、好評だった。

（藤原）「ひと口目は野菜から」は小学校でも取り組んでいると思うが、その数値は出ていないのか。また、生活ベジタベアンケートは今年から子どもの生活実態調査にリンクさせるという話があったと思うが、その進捗はどうか。

（山村）就学前のベジタベは扱っているが、小学校のものは別所管となっている。また、リンクさせるところまではまだ進められていない。

（半貫）平成３０年には、野菜から食べる子の割合は５６％、中学２年生は５７％となっている。

（藤原）それは上昇傾向なのか。

（半貫）どちらも上昇傾向である。

（藤原）野菜を無理やり食べさせているのではないか、という批判があったかと思うがそれは解決したのか。

（半貫）解決したと認識している。

日吉高齢医療・年金課長より、資料１３に沿って説明

（大竹）足立区ボランティア連合会においても、「男だけの料理教室」を開いて健康に繋がる料理を作ったりするような活動を少しずつ進めている。

（茂出木）体操教室やストレッチ教室というのは住区センターなどでやっているので、重なってしまっている部分も多いと感じる。ラジオ体操を住区センターでやっているようなところもある。料理教室に関して、調理室がある学習センターがとても少ない。しかしながら、開催すると参加率がとても高いと聞いている。また、後期高齢者の男性向けの料理教室の開催も増えている。男性は、体操にしても料理教室にしても、参加率がとても低い傾向がある。「パークで筋トレ」など無料で参加できるイベントにおいても、男性は少なく、女性の参加者がほとんどである。どのようにしたら、男性の参加率を上げられるかが課題である。

（乾）自殺にしても、引きこもりにしても、７割が男性という数字が出ている。男性をい

かに家から引き出すかが、高齢社会において大切だと感じる。
（藤原）高齢者の男性に企画させる、というのも１つの手だと思う。当事者を巻き込むことが大切なのではないか。
（近藤）最近だと、企業と連携して、企業のアイディアを使うということはある。カラオケと連携した、男のボイトレ教室など男性が好むコンテンツを提供することなどがある。また、オリンピック・パラリンピックというコンテンツをぜひ活用していただきたい。前回の東京オリンピックを知っている方も結構いらっしゃるので、うまく活用できれば非常に盛り上がるのではないか。男だけ、という的を絞った催しや教室は最近全国で人気になりつつあるので、取り上げてみるのもいいかもしれない。

物江データヘルス推進課長より資料２、資料３に沿って説明

（藤原）４０歳前というのは、すべての人が対象なのか、働いていない人のみが対象となるのか。
（物江）全員を対象としてはいるが、働いていて職場の健診等がある方はご遠慮いただくよう案内している。
（藤原）利用者数や利用率はもう出ているのか。
（物江）利用率は約８割となっている。数でいうと、１，３００人ほど。その中でも、８割が女性で、産休や育休中の方が多い結果となった。
（鈴木）そのような事業を行なうことによって、いくらほど糖尿病に関する医療費を削減することができるのか。
（物江）医療費削減というのは、なかなか難しいところである。しかし、糖尿病でいえば１度人工透析になってしまうと年間で５００万円程かかってしまう。１人が１年透析になるのを遅らせることが出来れば、１人あたり年間５～６００万円減らすことが出来るのではないかと考えている。
（鈴木）何人くらい削減することが出来たのか。また、その総額は。
（物江）単純に計算するならば、対象となるのは２６名×５００万円である。しかし、それは２６名全員がそのままにしておいたら透析になった、という仮定である。
（藤原）費用対効果がどうなのかをしっかり出していくべきだ。区民もそれを望んでいる。
（物江）効果、結果を出していけるよう努力していきたい。

物江データヘルス推進課長より資料４、資料５に沿って説明

（藤原）それぞれのがん検診の、受診率の現状はどのくらいなのか。
（物江）２９年度の乳がん健診は、13.9%。子宮頸がんは 13.3%。２３区内では、下２０番目くらいの受診率である。３年間でどちらも 3%ほど落ちてしまっている。
（藤原）他の区では、いくらくらいで行なっているのか。
（物江）自己負担を取っている区の中では、５００円は１番安い。次に高いところは、１，０００円である。

物江データヘルス推進課長より資料６に沿って説明

（湊）成人歯科健診は、ほかの区では４０歳以上が対象の場合が多い。歯科医師会は５５あるが、４０歳未満を対称に歯科健診を行なっているところは２か所しかない。子どもたちは高校生ごろからだんだんと歯科医に来なくなり、大学まで来る機会の無い子どもがほ

とんどである。そんな中、成人歯科健診が２０歳から５年毎に行なわれることは、１０年ほど歯科医から離れていた子どもたちに歯について教育するとても良い機会となっている。一方で、口腔がんの診断などは高度な専門知識が必要で、このような健診でむやみに行なうことが出来ない。そのため、今後は、口腔がん検診として単独で行なっていけるよう、歯科医師会で協力していきたい。受診者数が増えているという実感の声もあるので、ありがたい。

（吉田）後期高齢者歯科健診は、対象者が７６～８０歳とある。上限をもっと上げることはできないのか。

（物江）今までは、７０歳であったため、それ以上の年齢の口腔の現状がわからず、ひとまずという形でこの年齢制限にした。今後、健診結果などを見ながら、年齢制限等は再度検討する予定である。

（藤原）子どものむし歯が減っていくことによって、高齢になっても歯がある人が増え、その結果、高齢者の歯周病が増えるという研究データがある。また、歯周病は精神疾患にも繋がるため、高齢者は歯科健診へ行き、結果精神疾患も防ぐことが出来るよう、前向きに検討していただきたい。

　産婦人科との連携は、保健予防課が行なっているのか。

（物江）その点も含めて、連携して受診率アップに努めていきたい。しかし、現在私どもが直接アクションを起こせている事業はまだ無い。今後は、いただいたご意見も踏まえて検討していきたい。

（藤原）定期的に連携を取っているようなので、確認事項に追加することでだいぶ変わってくるのでは。また、足立区はハイリスクに力を入れているので、そのような方は、歯周病のリスクも高いのではないか。これからも取り組んでいただきたい。

馬場こころとからだの健康づくり課長より資料７、資料８に沿って説明

（藤原）インフルエンザの全額負担というのは、聞いたことがない。大変な事業だと思うが、頑張っていただきたい。

馬場こころとからだの健康づくり課長より、資料９に沿って説明

（藤原）インターネットゲートキーパー事業から相談につながった、というのはメールやチャットのことで、実際の面談ではないということか。

（馬場）相談につながった１０８名はまずメールから始まっている。人によっては、チャットや電話で対応している。また、実際に面接に来てもらい、生活保護やＡＳＭＡＰにつながった例も挙がっている。

馬場こころとからだの健康づくり課長より、資料１０、資料１２に沿って説明

（藤原）３回分連続してデータがある子は限られるにしろ、子どもの健康・生活実態調査に限らず過去の調査と比較して検討することが出来る資料である。第１回の結果を受けて介入を行い、これほどの短期間で効果が数値に現れるというのは稀な例だ。

（近藤）足立区の多様性という部分に関して、健康問題も非常に大切な部分であると思う。また、令和３年から生活保護受給者の健康管理が義務化される。足立区がどのように対応していくのか、今後もぜひ見させていただきたい。